

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつとり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ
令和元年10月15日 現在

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策	
作物	水稲	<ul style="list-style-type: none"> ・成熟期が1日程度早く、稈長・穂長はやや長く、穂数は平年並～やや多い。 ・コシヒカリを中心に倒伏が見られる。 ・屑米が多く、収量がやや少ないとの現地から声が聞かれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫作業の進行に努める。 	
	大豆	<ul style="list-style-type: none"> ・生育は順調であり、黄葉期を迎えている。 ・概ね莢付や粒肥大、黄葉、落葉なども順調である。 ・雑草の多いほ場が散見される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・排水対策を継続して実施する。 ・収穫前の雑草対策を徹底する。 	
果樹	ナシ	<ul style="list-style-type: none"> ・「新興」は収穫・選果中である。 ・「王秋」は10月18日に査定会開催予定である。園芸試験場の事前調査では、コルク状障害は少ない傾向であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新興」は今月末までの収穫、「王秋」は今月末から収穫・選果が始まる見込み。両品種ともに、果色をよく確認して、適期収穫を徹底する。 ・「王秋」では、コルク状障害について、選果を徹底する。 	
	カキ	<ul style="list-style-type: none"> ・「輝太郎」は、9月30日から選果が始まっている。台風の影響により、枝スレが見られるが、昨年より赤秀率は高くなっている。 ・「西条」は10月3日より選果が始まっている。例年に比べ、着色が遅れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・果色の進みに合わせて、適期収穫を徹底する。 	
野菜	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 【秋冬ねぎ】 ・高温で停滞していた生育も回復し10月上旬から出荷が始まっているが、例年と比べ生育はやや遅れているため、本格出荷も遅れている。特に、高温となった9月上旬に土寄せを行ったほ場では、軟腐病、根傷みの影響で生育が遅れている。 【春ねぎ】 ・高温の影響でやや生育が遅れているが、概ね順調。 【夏ねぎ】 ・今年度の出荷は終了。出荷量は昨年の110%程度。 ・トンネル作型を中心に、9月下旬から播種が始まっている。 【病害虫】 ・一部でべと病、ヨトウムシの発生がみられたが、影響はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋冬ねぎは10月下旬から全県的な本格出荷となる見込み。 ・さび病、黒斑病の予防防除を徹底する。 ・ネギアザミウマやヨトウムシ類の防除を徹底する。 ・収穫が降雪期にかかるほ場は、畝の両サイドにハウスバンドを張る等、葉折れ防止対策を降雪前に設置する。 ・夏ネギは11月末ごろに定植が行われる見込み。 	
	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> 【秋冬ブロッコリー】 ・9月25日頃から収穫が始まり、10月10日頃から本格出荷となっている。例年より2、3日早いが、花蕾腐敗症があり品質低下がみられ、秀率が60%程度にとどまっている。 ・台風19号で倒伏、一部のほ場では葉折れ、軸折れが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・台風の被害があるほ場は、土寄せ、葉面散布による草勢回復を図る。 ・黒すす病、黒腐病、菌核病の防除を徹底する。 	
	らっきょう	<ul style="list-style-type: none"> ・東部地区、中部地区とも順調に生育。 ・気温が高く推移しており、ネギハモグリバエの発生が早くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネギハモグリバエの被害を受けないよう防除を徹底する。 ・10月下旬から白色疫病の予防散布を定期的に行う。 	
	ながいも	<ul style="list-style-type: none"> ・長芋・ねばりっことともに黄化・落葉し、収穫に向けて地上部を片付け中。 ・病害虫の発生は例年よりも少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月25日から出荷となる見込み。 	
	アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> ・10月上旬で集荷はほぼ終了。出荷量は昨年よりもやや多くなる見込み。 ・ハウス栽培、露地栽培とも斑点病の発生しているが、例年並み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後も株養成のため、茎葉が黄化するまで引き続き防除を徹底する。 	
	夏秋トマト	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫は9割程度終了。出荷量は前年並みであるが、盆までの低単価が影響して、販売額は1.4億円(前年対比約80%)にとどまっている。 ・葉かび病、すすかび病、うどんこ病、灰色かび病、コナジラミ類が増加傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷は11月上旬まで続く見込み。 ・エスレル処理を行い残りの果実の熟期促進を図り、出荷量を確保する。 ・出荷ロスが出ないように、最後まで病害虫防除を徹底する。 	
	ミニトマト	<ul style="list-style-type: none"> ・赤碓地区の出荷量は9月末で263t(前年比100%、平年比100%)、販売額1.7億円(前年比79.8%、平年比90%)。 ・果実にかび、くもり果、落果の発生が見られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、夜間保温でハウス内湿度が上昇するため、すすかび病、葉かび病の防除を徹底する。 	
	にんじん	<ul style="list-style-type: none"> ・8月播種の作型は概ね順調に生育。9月播種の作型は高温により、一部で発芽不良のほ場がある。 ・淀江地区沿岸部では台風17号の強風による葉傷み、台風19号による塩害と見られる症状で、生育が遅れているほ場があり、一部、欠株が生じる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒葉枯病、斑点病の防除を徹底する。 ・青首防止のための土寄せを徹底する。 ・台風による葉傷みを受けたほ場は、葉面散布剤を散布し、草勢回復を促す。 	
	花き	アスター	<ul style="list-style-type: none"> 【抑制作型】 ・北栄町:10月6日から出荷が始まった。概ね順調だが、草丈が短いほ場が見られる。 	
		シンテツポウユリ	<ul style="list-style-type: none"> 【抑制作型】 ・倉吉市:9月下旬から出荷中。病害虫の発生は見られない。 ・北栄町:採花は前倒し傾向で、9月下旬～10月上旬が出荷ピークとなった(日量15000本)。1～2輪率が例年よりも高く、リン付き以上は3～4割程度となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体にリン数が少なく、今後もリン数が少ない状況は続く見込み。
トルコギキョウ		<ul style="list-style-type: none"> 【抑制作型】 ・倉吉市:開花中。 ・北栄町:日南に委託した苗が全て抽台し、草丈も概ね70～80cmが確保できた。9月中旬から10月上旬の採花となり、一部中旬以降開花の品種がある。また、トルコギキョウ斑点病の発生が1戸で見られた。据え置き栽培の苗から発生した様子。同一生産者で青枯れ病が発生し、2割程度が枯死した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・斑点病や青枯れ病が発生したほ場では、次年度の作付けについての対策が必要。 	
ストック		<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 ・鳥取市:本葉4枚程度展葉。八重鑑終了。一部で虫害が見られる。 【中部地区】 ・倉吉市:7月下旬～8月初め播種作型で、1cm程度の花蕾が見られる。ほ場によってシンクイムシ、アブラムシが散見される。 ・北栄町:7月下旬～8月1日播きは花芽分化がやや遅れた。ハイマダラノメイガの被害が大きいほ場も見られる。また、8月5日～10日播種は、花芽分化が早かったため、葉数が少なく、草丈が短い見込みで、8月15日播種は例年並の花芽分化だったが、8月20日播種の花芽分化は遅れたため、開花も遅れる見込み。 【西部地区】 ・溝口町:9月26日～出荷開始(昨年は9月27日～) ・大山町:8月17日播種のホワイトアイアンまで、花芽分化が始まっており、平年並みの生育である。 	<ul style="list-style-type: none"> <共通> ・病害虫防除と灌水管理を徹底する。 ・北栄町:花芽分化が遅れた7月下旬から8月上旬播種、8月20日播種は出荷が遅れる見込み。なお、7月上旬～8月上旬播種の出荷は10月20日以降となる見込み。花芽分化情報を生産部に提供し、ビビフルやLED電照による草丈伸長や開花促進を行う。 ・大山町:出荷始めは10月15日前後の見込みである(H30は10月14日出荷)。10月から菌核病等の発生が予想されるので、対策を啓発している。 	
畜産	飼料用トウモロコシ	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 ・全体約60haのうち、約54haの収穫が終了。収量は例年よりも多い。 【中部地区】 ・倉吉市:前年より5日早く10月10日に収穫終了。全体84.8haのうち、67haを倉吉コントラ(同)が収穫。 ・北栄町、琴浦町:収穫終了。収量は昨年よりも多いが、例年並。 【西部地区】 ・大山町:遅まき分2ha程度を残し、収穫はほぼ終了。収量は例年よりも多い。一部イノシシ被害発生。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も収穫を進めるとともに、次年度に向け、ほ場での堆肥散布や除草作業を進める。 【西部地区】 ・大山町:10月中旬には収穫は終了見込み。 	
	イタリアンライグラス等	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 ・イタリアンライグラスはほ場へ堆肥の運搬・散布作業中。 ・WCS約190haのうち、65haの収穫が終了。収穫状況は例年どおり。 【中部地区】 ・北栄町、琴浦町:イタリアンライグラスは播種作業中、天候不良で遅れ気味。 【西部地区】 ・大山町:イタリアンライグラスは播種作業中。9月播種分の生育順調。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリアンライグラス等は天候の状況を見て播種作業を進める。 【東部地区】 ・WCSは11月中に収穫終了予定。 	